



発行

2011年10月31日 第87号

社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館
 発行人/池田魏義
 編集人/湧井規子
 〒457-0805
 名古屋市南区三吉町6丁目17番地
 TEL/052-612-3370 (本部)
 FAX/052-611-9085
 URL/http://shakaikan.com
 E-mail/shakaikan@shakaikan.com

東日本大震災 宮城支援ボランティアに参加して

デザイナー/ビス友・愛所長 小早川 弘江



七ヶ浜ボランティアセンターの様子



石巻漁港周辺

に参加しました。高台にある浜湊集落に10家族の仮設住宅があり20人ほどが入れる集会所がありまして。70歳代の女性たちが午前4名、午後5名集まりました。みな、菖蒲田浜の方たちで470軒の集落で400軒の家が津波で流されたその方たち

でした。ボランティアの私を気遣いながら、孫を連れて丘に駆け上がったこと。雪が降り寒い日だったこと。ストーブや家の鍵をとり引き返した人たちが津波にのまれたこと。漁の網の手入れをして家族を支えてきたこと。今、4畳半2間で家族5人暮らしていること。息子夫婦は仙台で暮らすようになったこと。基礎だけになった我が家に今、ひまわりの花がいっぱい咲いていること。たくさん話していただきました。

一緒に魚屋さんに買い出しにでかけた中で、足腰弱らんように毎日2時間くらい歩いてるといながら、高台に家を建てたいと逞しい顔ものぞかせてくださいました。デザイナービスの利用者が作ってくれた絞り染めのハンカチやリボンで作った金魚のプレゼントをととても喜んでいただき、反対にお家からトマトや葡萄、お饅頭を差し入れられ、珈琲をたててわいわいいただきました。どんなに悲しくつらかったでしょうが、そこに留まらず歩みだそうとする女性たちに私は嬉しくなりました。

夕方他の8名と合流し互いの1日进行交流。皆少し疲れが出始めた中、同行した大学生の元氣さにあきれました。

9月1日(4日目) 雨の中、石巻へ向かいました。専修大学内のボランティアセンターは募集はなく被害状況を聞き、福祉法人を紹介していただき石巻漁港へと向かいました。岸壁に積み上げられたがれきの山、高い防波堤に乗り上げた船、骨組みだけが残る魚の加工工場が乱立しています。誰もいなく、雨の中飛び交うウミネコの声の凄まじさに恐怖すら感じました。しかし、ここにも歩みだしがはつきりあります。

イカ釣り漁船の船が2隻停泊しています。壊れた工場の2階で働いている人々もいました。8月末鯉の水揚げをしたこと、その後ニュースで9月6日海苔養殖の種付けをしたことなどを

聞くと胸があつくになりました。午後は運河沿いにある社会福祉法人に行きました。突然の訪問、そして忙しくたいへんな中とても丁寧で、そして熱く3・11からの様子を語っていただきました。「浮島のように施設は冠水しなかったため、自衛隊のヘリコプターが何の連絡もなく次々に避難者をおろし、60人ほどの受け入れになった。次の日から食料調達に走った。避難所の障がい者の安否確認に奔走した。障がい者優先の仮設住宅はないのでそれを開設した。」この約半年間の法人の努力が堰を切ったように語られました。凛とした表情が脳裏に焼きつきました。同じ社会福祉法人として学ぶことがたくさんありました。

その後、仙台をめざすつもりが導かれるように海面すれすれの道を奥松島にはいつていました。壊れた橋を渡り、いたるところに大きな松が根こそぎ倒れています。民宿やホテルが空洞化しています。生活の気配を感じず、すごい光景を目の当たりにしました。工事の方に何日も孤島になったとききました。報道されていない地域が大変な被害を受けていたことに胸が痛みました。奥松島から引き返し変わらぬ絶景の松島を左手にみながら仙台へとひきあげました。観光客は8割減と寝そべって海を見ていた「ずんだもち」屋のおじさんの言葉が今も思い出されます。東北でお金を使おう！が合言葉でしたので10人よく食べよく飲みました。仙台市内の活力に「負けない・がんばってる」という思いが強く伝わってきました。

9月2日(5日目) 東北に別れを告げて名古屋へ。帰りは10名が少し無口になりました。ボランティアに参加した日々を反芻するようにこのわずかの日々で東北の人々に少しでも何かできたのだろうか。そんな思いが溢れてきますが、私たちが見たこと感じたことを職場や地域で伝えることしかないと思い返しました。

10名で参加した5日間。共に働き、食べ、笑い、語りあいました。初めて会った人もいました。しかし日に日に情がわき、つい母ごころになったり、自分も生徒のようになっていたり不可思議で思い出深い時をすごしました。送り出していたいた職場の仲間や家族、社会館につながるすべての方々に感謝します。また再び多くの仲間と東北の地に行くことを決意して。

8月30日(2日目) 朝7時40分にホテルを出発して七ヶ浜ボランティアセンターへ。菖蒲田浜周辺は基礎だけが残ったあとかたもない家々が続きます。その1軒の基礎の中の泥だし

8月31日(3日目) 私と富田園長はマッチングで手をあげ仮設住宅の臨時集会所のお世話

名古屋キリスト教社会館の使命

名古屋キリスト教社会館は、創立の精神に基づき、次の使命を担います。

1. すべての人々がかけがえのない存在として人権が保障され、とをめぐります。
2. 隣と地域の課題を担うことを通して福祉の輪が広がるよう努めます。
3. 世界の人々をともに通して、福祉社会の実現のために

コミュニティケア部門

- 菜の花保育園 (子育てセンターなのはな)
- 名南ユースセンターACT
- ちどり児童会
- デイサービス友
- デイサービス愛
- 居宅介護支援事業所
- 配食サービスゆうの里

障害児者福祉事業部門

- 南部地域療育センターそよ風
- 愛育診療所
- デイサービスみどり
- デイサービスACT
- 南区障害者
- 地域生活支援センター
- 発達センターあつた
- デイサービスあつた
- 発達センターちよだ
- デイサービスちよだ
- ホーム社会館
- のどか・うらら・天歩
- しゃかいかん・いっぽ
- ヘルパーテーションぴぽっと
- 活動センターねーぶる

事業所紹介

日本では、私立大学の1割以上がキリスト教精神に基づいて設立されています。また、社会福祉法人も、名古屋キリスト教社会館やさくらん会など、キリスト教精神に基づいて設立されたものが少なくありません。日本ではキリスト者の比率がパーセントにも満たないことを考えますと、驚くべきことです。欧米やアジアの国々でも様々な形で社会(福祉)的な働きを教会、キリスト者は担っています。

なぜそうなったのでしょうか。それは、キリスト教の基であるイエス様にまで遡ることができます。教会は、キリスト(油注がれた者、メシア、救世主)のからだであると自覚しています。頭(かしら)はキリストであり、自分たちはイエス・キリストの手足として働くのだと考えています。

そのイエス様はどのような方だったのでしょうか。新約聖書の最初にあります四つの福音書を丁寧に読んでみますと、イエス様は、「力ある業・奇跡」をたくさん行っています。しかし、自分のために行ったことは一度もないのです。いつも、目の前にいる目の不自由な人や足の不自由な人など、本当に深い悲しみ、苦しみの中にある人を深く憐れんで様々な癒しの業を行いました。この「憐れみ」は、上

から目線ではありません。自分の内臓が痛むようにして、共感することです。そして、その極みは、十字架の出来事です。イエス様を殺そうとする人々の罪を贖うために、イエス様は自分の命を犠牲にして、神のご意志がなるように、殺されました。教会がいつも正しく行動してきたわけではありません。二千年の歴史の中で、魔女刈りや十字軍など、また近い所では十五年戦争の時の日本基督教団の過ちなど、人間として

キリスト教精神とは何か

の弱さ・罪の中で数々の過ちがありました。しかし、教会の一番根幹にあるのは、このイエス様の生きる姿です。自分のためではなくて、痛み苦しむ誰かのために何かをしたい、そのような愛の思いです。自分は既に、イエス様を通して、神様から十分に愛されている、その愛をもっと多くの人々にも味わって欲しいという願いです。

名古屋に来る前、神奈川県

からもキリスト者の教職員に占める割合は似たようなものです。しかし一つの学校では、キリスト者ではない方々が「この学校はキリスト教精神に基づいて教育をするのだ」ということに深い理解と共感をもって下さっていました。この学校では、聖書の授業もスムーズにできましたし、学校全体が一つにまとまっています。もう一つの学校では全く逆でした。

日本のような社会では、キリスト教精神に基づいていても、キリスト者でない方々の働きに多くを負っています。そこで大切なことは、たとえキリスト者ではなくても、創設の精神をどれだけ深く理解して、自分もまた、参与しているのだという自覚ではないでしょうか。キリスト者であっても、創設の精神に違和感を持ち続けて妨げになる方もあれば、キリスト者でなくとも、謙遜に創設の精神、また法人の目指す所を理解して協力して下さる方もあります。

名古屋キリスト教社会館の働きが、信仰の枠を越えて、キリストの愛を体現するものであり続けることを願ってやみません。

日本基督教団名古屋教会牧師
社会福祉法人さくらん会理事長
早乙女哲自

東部地域療育センターの設置運営が 名古屋キリスト教社会館に決定しました。

9月16日付で、名古屋市から一通の手紙が届きました。「名古屋キリスト教社会館を東部地域療育センター設置・運営法人に選定する」という内容でした。医療ケアを必要とする子どもが安心して通園でき、下駄ばきで相談できる「地域療育センター」を市内に5か所整備するという構想が、25年の時を経てやっと実現します。

東部地域療育センターは千種区・名東区・守山区をエリアとします。今回名古屋市が「公募」という方法をとるにあたり、法人や法人内の3つの通園で検討を重ねてきました。そして「発達センターちよだ」(守山区)を拠点に、当該エリアにて、地域療育のネットワークづくりをすすめてきたことを踏まえ、ぜひ、自分たちの手で地域療育センターを担いたいと応募しました。

建設地が千種区ということ、特に守山区の利用者にとっては、不便が予想されます。守山区に療育拠点を置く必要性もあり、どう実現させていくかなどの課題もあります。

2014年4月の開設まで十分時間があるわけではありません。しかし、社会館が一貫して目指してきた、名古屋市全体の療育システムの充実にむけて、さらに大きな一歩を踏み出す決意です。今後とも関係する皆様より、さらなるご支援をいただきますよう、お願いいたします。

(発達センターちよだ園長 加藤 淳)

社会館後援会 臨時総会が 開催されました

去る、9月10日(土)、46名の参加者と共に、楽しく有意義な時を過ごしました。さわやかなミニコンサートに耳を傾けた後、臨時総会を開催。

岡村会長挨拶に続き、活動経過と現在の会員数167名(2011年度目標250名)であることが報告、さらに事務局長は湧井規子から谷川修への交代が承認されました。その後、研修会とお楽しみ会では、ケーキ・コーヒー、ビンゴゲームにより会場は大きな笑いに包まれました。

後援会にご加入ください!!
後援会企画にご参加ください!!

★第1回バス・ハイキング
=熊野古道を歩く=

2011年11月13日(日) 8時~18時30分
(申し込み先) 612-3370 松岡・河合まで

発達センターあつた

あつたかカーニバルvol.8を行ないました!

毎年恒例のあつたかカーニバルは、通園児はもちろん、年に一回今まであつたに通ってきた子どもたちやご家族があそびに来てくれる日として定着してきています。そして、地域の方にもチラシを配布し、発達センターあつたのことを知っていただく機会にしています。今年で8回目を迎えた「あつたかカーニバル」はお母さんたちのがんばりで地域のお店の協賛を55件もいただきました!! 準備もすすみ、「さあお祭り楽しむぞ!!」と気持ちが入ったものの、台風がきてしまいました。迷いに迷い一日延期とし、9月4日(日)室内にて無事開催され、何とお祭り中は雨も止んでくれました。



おひさまバンド燦ほくの演奏でスタート

ゆうぎ室に組まれたステージでは、園児のかわいい踊りと年長さんのかっこいい竹太鼓のセツシヨントおひさまバンド燦ほくさんによる演奏&子どもたちの踊りもお客さんいっぱい廊下から覗き込んでみている方がいるほどでした!! 日程変更で出演者さんをお願いできなかったり、急遽職員&お友達によるトーチを組み込んで披露! 子どもたちも大人も釘付けでしたよ。

お祭りのもう一つの楽しみは出店です! お母さんたちのカレーライス・ポテト・ナゲット、お父さんたちの究極のやきそば、地域のお店、職員のやきとり・みたらしだんご、ボランティアさんのゲーム、あそびコーナー。もうおいしくって、楽しくって、みんな笑顔がキラキラと輝いてました。あちこちから聞こえてくる「わっっ! 久しぶりだね!」の声。同窓会コーナーでは、久しぶりに会えたあつたの仲間との話が盛り上がり、通園時代のビデオを見て懐かしんだりしました。日にちが延びた上、開催日も雨...という中にもかかわらず400名もの方が足を運んでくださいました! おかげさまで活気あるお祭りとなりました。ありがとうございます!!

TEL 681-1167
FAX 681-1178

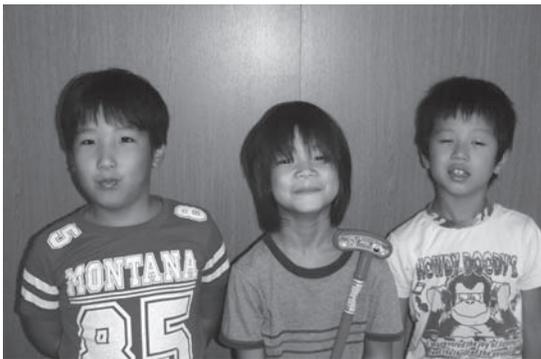
(北川奈津美)

子どもセンターみどり

「安心と安全・災害対策と地域づくり」

子どもセンターみどりは、午前中に親子のびよんびよん教室(療育グループ)、午後は、学齢児放課後余暇支援事業のデイサービスみどり(児童デイサービス)を行っています。

今回は、児童デイが参加する、緑区自立支援協議会所属の「児童部会」(4事業参加)の活動を紹介いたします。



ケンカもするけど楽しい3人組

3月に起きた東日本大震災の教訓から、沢山の人が集まる「避難所生活」が大変困難な子どもとその家族への支援の課題が見えてきました。このことから、児童部会では、災害時の「避難場所確保の仕組みづくり」の検討を進めています。

その構想案とは、『災害時、緑区内4ヶ所の児童デイ事業所の1ヶ所を本部とし、各事業所と連携。避難場所の各小学校では集団生活が困難な子どもとその家族が小教室に避難し、更に区内4ヶ所には「広域避難場所」として、4つの事業所職員が支援に入る』という計画です。また現在、具体化するに当たっては、既存の福祉避難所もあるため、区役所担当課との調節も始めた段階です。更にこの計画をきっかけに、子どもから高齢者

までその対象を広げていく事も勿論課題となります。

一方名古屋市では、「助け合いの仕組みづくり」が市内半数近くの学区で具体化されつつあるため、私たちの計画が具体化された段階で、それぞれの「ご家庭が、町内会に災害時のご家族の避難場所について伝えること」によって、地域の方との繋がりをより強めていくことになると考えています。

この「居場所計画」が具体化され、それぞれの家庭が地域と繋がれば、地域住民や事業所等の「点」が「線」へ、更に「面」に拡がり、これが「地域づくり」の実践として、安心と安全モデルの一つになればと考えています。

(山本 憲司)

TEL 623-3560
FAX

地域と ともに 歩む

ホーム社会館 (ケアホームのどか)

学区の盆踊りに参加して

のどかがこの地に引越してきてから5年が経ち、隣近所で顔見知りの人も増えてきました。

最初は道ばたで会釈をするぐらいでしたが、仲間のためのスロープを作ったりしているのを作っているのかと尋ねられたり、一緒にスロープのペンキ塗りをしてると「頑張っているね」と応援してくれたり、荷物を運んでくれると「駐車場をつかっていいよ」と声をかけてくれるようになってきました。学区の行事にもできるだけ参加するようになっていきます。そのひとつに千鳥学区の盆踊りがあります。



夏まつりにて、これから踊りに向かうkさん

TEL 611-5541
FAX

(土肥 悟)

世話人として自分が4年前に来た時、ホームの仲間が地域でどのように暮らしているかのようにイメージが持てませんでした。一緒に生活し、ゴミ出しを仲間と一緒に「ごころうさん」と声をかけてくれる。仲間も照れた表情をして応えている。清掃活動に参加した時も同じように、仲間間のサポートを通して、地域で暮らすことの意味、大切さ、そして地域の温かい風に見守られて、共に生きあう実感を私自身が感じられるようになってきました。

この9月、私たちは利用者さんの中で最高齢の103歳のKさんを見送ることにになりました。

Kさんはデイサービスでは、サービスマンとして、暑いお風呂や食べるのが大好きで、100歳過ぎてもうな井をおいしそうに平らげていました。また、家で過ごされているように要望をはっきりと仰ってくださいました。時々歌も歌っていました。日によっては昼前に「帰りたい」と言いだされ、私は時々ハラハラもしていました。でも、だからこそ「気持ちよかった」「うまかった」「ありがたかった」と言ってお別れするときには嬉しくて、またその言葉を聞くために頑張りたいと思えました。

Kさんは今年に入ってから体調を崩してしまいましたが、デイサービスの利用もなくなり、私たちがまた友を介して利用できることを願っていました。9月13日に眠るように亡くなりました。

翌日、私たちはKさんのお通夜にうかがいました。Kさんのお孫さんから「デイサービスがあったからここまで家で看ることが出来た」と言っていたことが本音に嬉しかったこと、お孫さんのAさんは、3人の子供さんを育てながら介護にあたりました。3番目のお孫さんのオムツが取れた後、Kさんがオムツをするようになったと話してくださいました。

病院や入所施設で亡くなられる高齢者の方が増え、またそれが半ば普通という考えも増えている中において、最期まで自宅で介護をすることを選んで介護を行ったKさんのご家族。一人では家で看ることはきびしく、息子さんとお孫さん二人がとも協力してKさんの介護をされたこと、聞きまし。もちろんそれが全ての場合において最善の選択であるかはわかりませんが、Kさんの場合は最高の最期を迎えられたのではないかと思います。そして、そのためのお手伝いが少しでも出来たことをとても嬉しく思います。

(山口 勝也)

TEL 612-3077
FAX 612-3067

デイサービス友

在宅介護の支えとして



食は長生きの秘訣

この9月、私たちは利用者さんの中で最高齢の103歳のKさんを見送ることにになりました。

Kさんはデイサービスでは、サービスマンとして、暑いお風呂や食べるのが大好きで、100歳過ぎてもうな井をおいしそうに平らげていました。また、家で過ごされているように要望をはっきりと仰ってくださいました。時々歌も歌っていました。日によっては昼前に「帰りたい」と言いだされ、私は時々ハラハラもしていました。でも、だからこそ「気持ちよかった」「うまかった」「ありがたかった」と言ってお別れするときには嬉しくて、またその言葉を聞くために頑張りたいと思えました。

Kさんは今年に入ってから体調を崩してしまいましたが、デイサービスの利用もなくなり、私たちがまた友を介して利用できることを願っていました。9月13日に眠るように亡くなりました。

翌日、私たちはKさんのお通夜にうかがいました。Kさんのお孫さんから「デイサービスがあったからここまで家で看ることが出来た」と言っていたことが本音に嬉しかったこと、お孫さんのAさんは、3人の子供さんを育てながら介護にあたりました。3番目のお孫さんのオムツが取れた後、Kさんがオムツをするようになったと話してくださいました。

病院や入所施設で亡くなられる高齢者の方が増え、またそれが半ば普通という考えも増えている中において、最期まで自宅で介護をすることを選んで介護を行ったKさんのご家族。一人では家で看ることはきびしく、息子さんとお孫さん二人がとも協力してKさんの介護をされたこと、聞きまし。もちろんそれが全ての場合において最善の選択であるかはわかりませんが、Kさんの場合は最高の最期を迎えられたのではないかと思います。そして、そのためのお手伝いが少しでも出来たことをとても嬉しく思います。

(山口 勝也)

東日本大震災支援活動報告②

●●●●● 仙台・七ヶ浜支援活動に参加して ●●●●●

3月11日、自分の中の既成概念が大きく崩れ、その被害の甚大さに言葉を失いました。「少しの力でも何かできる事はないか？」と個人的には4月に石巻市を訪れていました。今回は社会館第3次支援活動グループの一員として、8月8日から12日まで、仙台七ヶ浜町を中心に支援活動を行いました。

私達が仙台に到着したのは8月8日、仙台七夕祭りの最終日の夕暮れでした。七夕飾りや短冊に込められた復興への強い願いは私達の心を熱くしました。七ヶ浜では住宅地周辺の瓦礫の撤去は一定のめどが立ち、田畑や海岸の瓦礫撤去を実施していただきました。私達が参加したのは、地域の復興のシンボル作り・菖蒲田浜海浜公園整備活動でした。東北で最初の海水浴場は町のシンボルです。海岸整備や遊歩道の整備、公園内での復興のシンボル作り、子ども達による植樹などのお手伝いをしました。復興に向けた、本当に大事な活動に関わることができました。

ボランティア活動終了後、被害状況の大きい石巻市を再び訪れました。4月に見た自衛隊の炊き出しや給水車を姿を消していました。信号機は依然として機能していない箇所も多く、人による誘導が行われていました。湊小学校では100人以上の方が依然不自由な避難所生活を送り、復興の地域差を感じざるを得ませんでした。今後の支

援のあり方は、物質的支援から精神的支援に移っていくそうです。個々のニーズをつかみ、信頼関係を築きながらの継続的な支援が求められると思います。

名古屋に帰り、また普通の生活が始まりました。昨日までの景色は夢だったのかという錯覚を起こす程でした。世間では震災報道の量も減り、被災地への関心が薄れてきています。しかし、福島では依然、原発の問題が続いています。この夏は節電を通して皆が少し被災地を思い共感をできる機会となりました。皆が当たり前のよう暮らし生活する日々、人と人のつながりが東北のみなさんに一日も早く戻るように…そのために、わずかでもできることから支援を続けていきたいと思っています。

菜の花保育園 太田 豊



社会館バザー

開催日：2011年11月23日(祝)
開催時間：午前10:30～午後2:30

恒例の社会館バザーの季節がやってきました。いいもの、安い物いっぱい。楽しいイベントも盛りだくさん。社会館に通っている人・家族・職員の手作りバザーです。是非お越しください。

バザー物品の提供にご協力をお願いします。

連絡先
南部地域療育センターそよ風 ☎612-3411まで

たくさんのご来場
ありがとうございました。

- 8月27日(土) 第30回社会館夏まつり
発達センターちよだ夏まつり
- 9月4日(日) あったかカーニバル Vol.8
(発達センターあつた)

～地域の皆さまのご支援、
ご協力に感謝いたします。～

2012年度 職員募集

保育・療育・介護・生活支援・地域生活の相談を担う職員を募集します。

- 職 場 保育園・障害児通園施設・地域療育センター・障害者支援事業所
高齢介護事業所 等
- 職 種 保育士、指導員、臨床心理士、保健師、看護師、理学療法士、社会福祉士
介護福祉士 など

詳しい募集要項等の問い合わせは法人本部、各事業所までお問い合わせください。

献金・協賛報告

ご協力頂いております方々のご芳名を掲載し、報告とお礼とさせていただきます。(敬称略・順不同)

〔東日本大震災支援活動のための募金〕
岩田悦、日本アライアンス教団名古屋キリスト教会、白石淑江、加藤峯子、斉藤真

〔事業所別寄付〕
あつた手まり会、支援センター福祉研究所 高森敏子

〔一般寄付〕

名古屋ワイズメンズクラブ、岩田悦、高橋昭彦、千鳥学区子ども会連絡協議会、杉本奈津、中村紀子、杉本節子、那須國宏、小林恵美子、吉田節子、中島忍、尾関明、高城道子、川原啓美、近藤直子、田中澄子、賀屋哲男、磯部モーターズ、大野三郎、柴田隆、中川賢一、斉藤裏、ライフ健康クリニック 高田和夫、藤沢光子

〔クリスマス献金〕

石井要、菅原美恵子、磯部モーターズ、大塚京子、仲義和、斉藤裏、大島和海
(以上 6/22/9現在)

苦情申し出の窓口

苦情の申し出窓口は、各事業所掲示板等に掲示しています。苦情受付者は主任、解決者は事業所長が基本です。

法人への苦情は、
本部事務局
612-3370
をお願いします。

また、法人職員ではなく、第三者の立場として苦情を受け、より良い解決へと導く立場の者として、第三者委員を選任しています。

第三者委員は、
加藤 考一 613-2718
小林 冴子 611-0401

編集後記

8月21日に社会館を会場として、被災地から名古屋に避難して来ておられる方々の交流会があった。参加されている方々の、とくに子どもたちの楽しそうな表情にほっとした。集まり、話

をして、眼を見て笑い、交流する。みんなが明日に向かうために、大切な時間なんだと思う。そして帰る場所が故郷である日が、早く訪れてほしいものだなあ。(A.S)